第52回国際統計協会（ＩＳＩ）大会および大会前ワークショップ

国際統計協会（International Statistical Institute, 会長：W. R. VAN ZWET・ライデン大学教授／J. L. BODIN・ＥＵ統計局長）の第52回大会（国内組織委員長：Timo RELANDER・フィンランド統計局長, プログラム委員長：J.N.K.RAO・カールトン大学教授）がフィンランドのヘルシンキ市フィンランディア・ホールで1999年８月10（火）～18日（水）の一週間にわたって開催された．世界の95カ国から約２千人の統計学者・統計家等が参加し，日本人参加者も約100名を数えてフィンランド，米国に次ぐ大集団であった．

統計学の各分野にわたって83の招待論文セッションと146の寄稿論文セッション（成立しなかったものやまとめられたものを除くと100程度）が開設され，千件以上の報告がなされた．人口に関連するセッションや報告は多数あったが，人口を直接のテーマにしたセッションは CPM75：Population Statistics と IPM6：Population Estimation and Forecasting の２つで，筆者は前者の寄稿論文セッションで Jean-Louis RALLU との共著論文 “A Comparative Analysis of Fertility in Japan and France” を報告した．

ＩＳＩ大会の前後にはその５部会がそれぞれワークショップ等を開催したが，筆者は国際サンプル調査統計協会（ＩＡＳＳ，会長：N. Chinnappa 博士）主催で８月５（土）～９日（水）にユバスキュラ大学で開催された「社会調査・事業所調査の方法論における最近の動向に関するワークショップ（Workshop on Recent Trends in the Methodology of Social and Business Surveys）」に参加した．ＩＳＩ大会のプログラム委員長を務めた RAO 教授をはじめとするこの分野の第一線の研究者・実務家が講師となって最新の動向に関する講義をするという，非常に有用なワークショップであった．なお，次回のＩＳＩ大会は2001年８月に韓国のソウルで開催される予定である．　（小島　宏記）

国際シンポジウム「アジア・太平洋におけるヒトの国際移動と社会・文化変容―その最新事情―」

国際シンポジウム「アジア・太平洋におけるヒトの国際移動と社会・文化変容 ―その最新事情 ―」は，1999年９月24，25日の両日早稲田大学において開催された．このシンポジウムは，ユネスコの国際共同研究プログラム「社会変容への対応」（Management of Social Transformations, MOST）に参加している「アジア・太平洋マイグレーション研究ネットワーク」（Asia-Pacific Migration Research Network, APMRN）と日本側のシンポジウム実行委員会が共同主催したものである．ユネスコは「社会変容への対応」を人文・社会科学分野における最初の重点領域に指定しており，国際移動を最も重要な研究テーマの一つとして掲げ APMRN の活動を支援している．APMRN には現在，オーストラリア，中国，フィジー，香港，インドネシア，日本，韓国，マレーシア，ニュージーランド，フィリピン，シンガポール，台湾，タイ，ベトナムの14カ国の研究者が参加しており，過去２回国際ワークショップを開催している．

初日は開会式に続き，第１セッション「アジア太平洋地域におけるマイグレーションの歴史と現状」と第２セッション「定住の状況―移住者と住民の関係」が，二日目には第３セッション「マイグレーションの諸側面―社会，家族，ジェンダー，コミュニティ」，第４セッション「マイグレーションと国民国家」，そして第５セッション「マイグレーションと文化的多様性―今後への展望」が開催された．今回のシンポジウムは，日本における外国人労働者に関する研究成果を国外に発表するという目的もあり，15の報告の内９つは日本人研究者によるものであった．参加者総数は約100名，海外からの参加